

(伊佐郡菱刈町大字前目字灰塚)

位置と環境

遺跡は役場のある麓の南西部に位置し、標高183mの舌状台地に立地している。

菱刈町は伊佐盆地の東南部にあたり、盆地のやまなみは標高400～600mで、水田地帯は標高約170mとなっている。この水田地帯には、川内川に流れ込む羽月川、市山川、重留川等の大小河川が発達し、標高約180mの微高地が形成されている。遺跡はこの微高地にある。

調査の経緯

昭和54年9月23日、菱刈町教育委員より町道前目―共進線の道路拡幅工事中に、鉄器が発見されたという連絡が県教育委員会にあり、翌日の24日に調査を実施した。

遺構と遺物

本遺跡は、地下式横穴墓3基、地下式石積石室墓が1基確認された。

地下式横穴墓1号

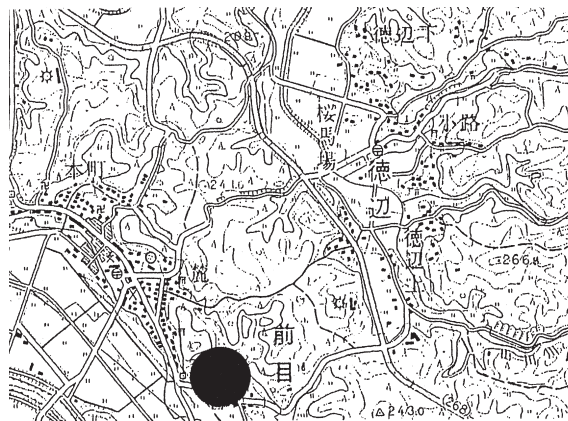
若干東側に寄った平入りの形態で竪穴部が少し残り、朱がみられる。羨道は一段あがり奥行きが無い。玄室は長方形で寄せ棟の家形をし、庇を表したため棚状施設が明瞭に作られている。玄室は170cm×160cm×115cmの規模を持つ。副葬品は鉄剣1本、鉄鏃が12本出土している。出土状況は東側に置かれ朱痕部に2本、剣の柄部に10本鉄鏃が束となっていた。

地下式横穴墓2号

竪穴部と羨門部と若干の玄室部が確認されている。竪穴は、現地表面より250cm掘られ、上部は径65cm下部は約100cmの半月状になっている。羨門部は台形をなし、羨道部は一段上がり奥行きが短い。

地下式横穴墓3号

玄室と若干の羨道部がみられる。玄室は片流れ状天井を持つ80cm×150cm×47cmの家形である。奥壁に庇の棚状施設があるが長さが80cmで短い。遺物は蛇行剣1本、鉄鏃12本が出土している。その蛇行剣は2曲がりの形態で、剣身24cm、茎長5cm、幅3.8cmである。この遺構は、深さ110cmのところにあり、



第1図 前目灰塚遺跡の位置

規模は約200cmである。石室の石は約45cmで3枚見える半裁された地下式板石積石室墓である。

特徴

この遺跡は、平入りの地下式横穴墓と地下式板石積石室墓が同じ地域に存在する古墳群である。

そして、蛇行剣が副葬品として備えられていた古墳がみられたことである。

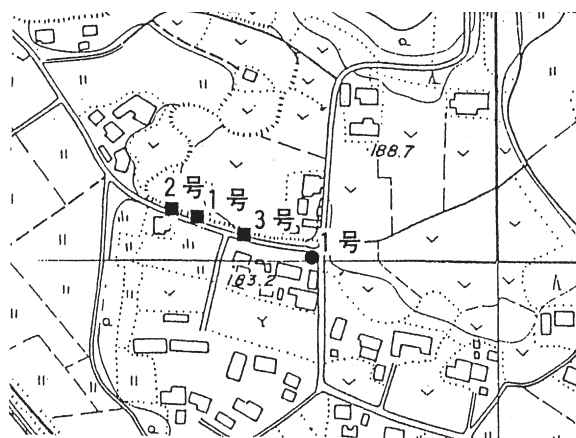
資料の存在

出土遺物は、県立埋蔵文化財センターに保管されている。

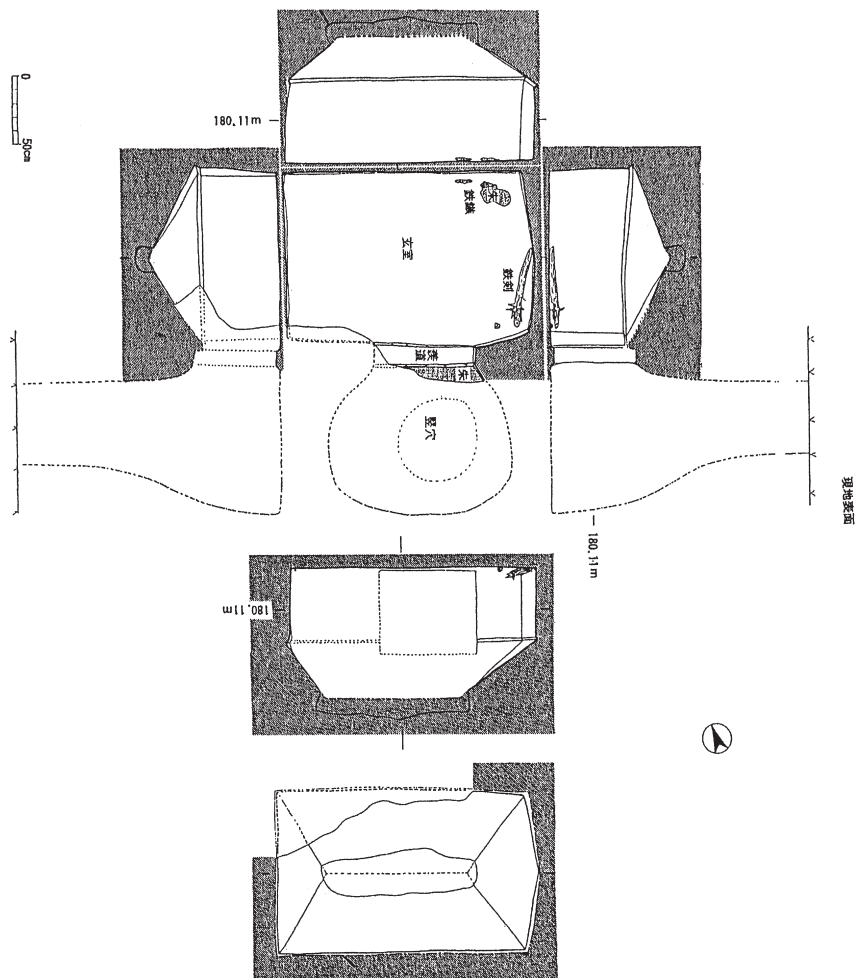
参考文献

菱刈町教育委員会1986「前目灰塚遺跡」『菱刈町埋蔵文化財発掘調査報告書』4

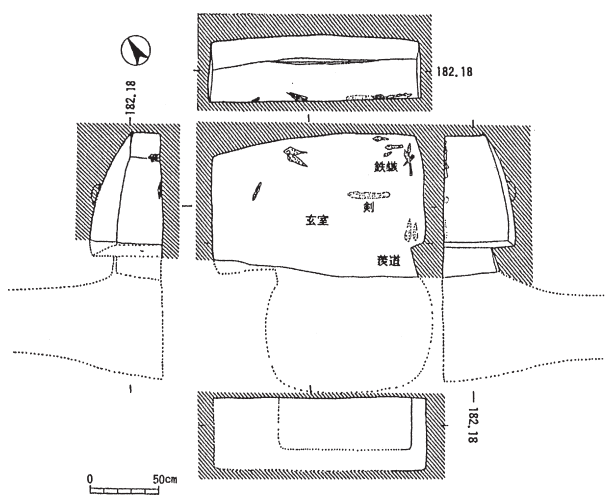
(彌榮久志)



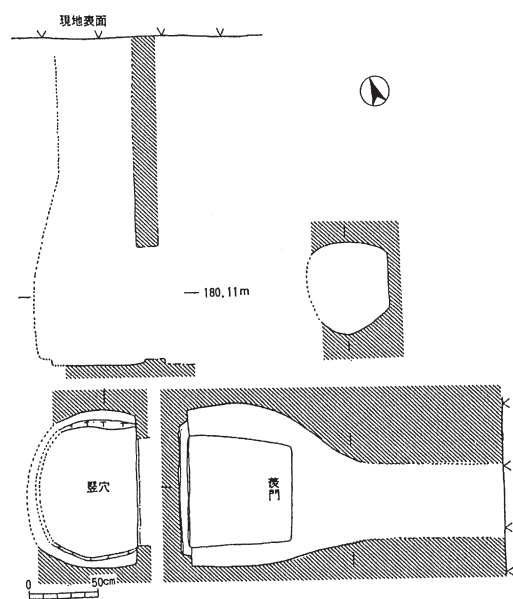
第2図 前目灰塚遺跡の配置



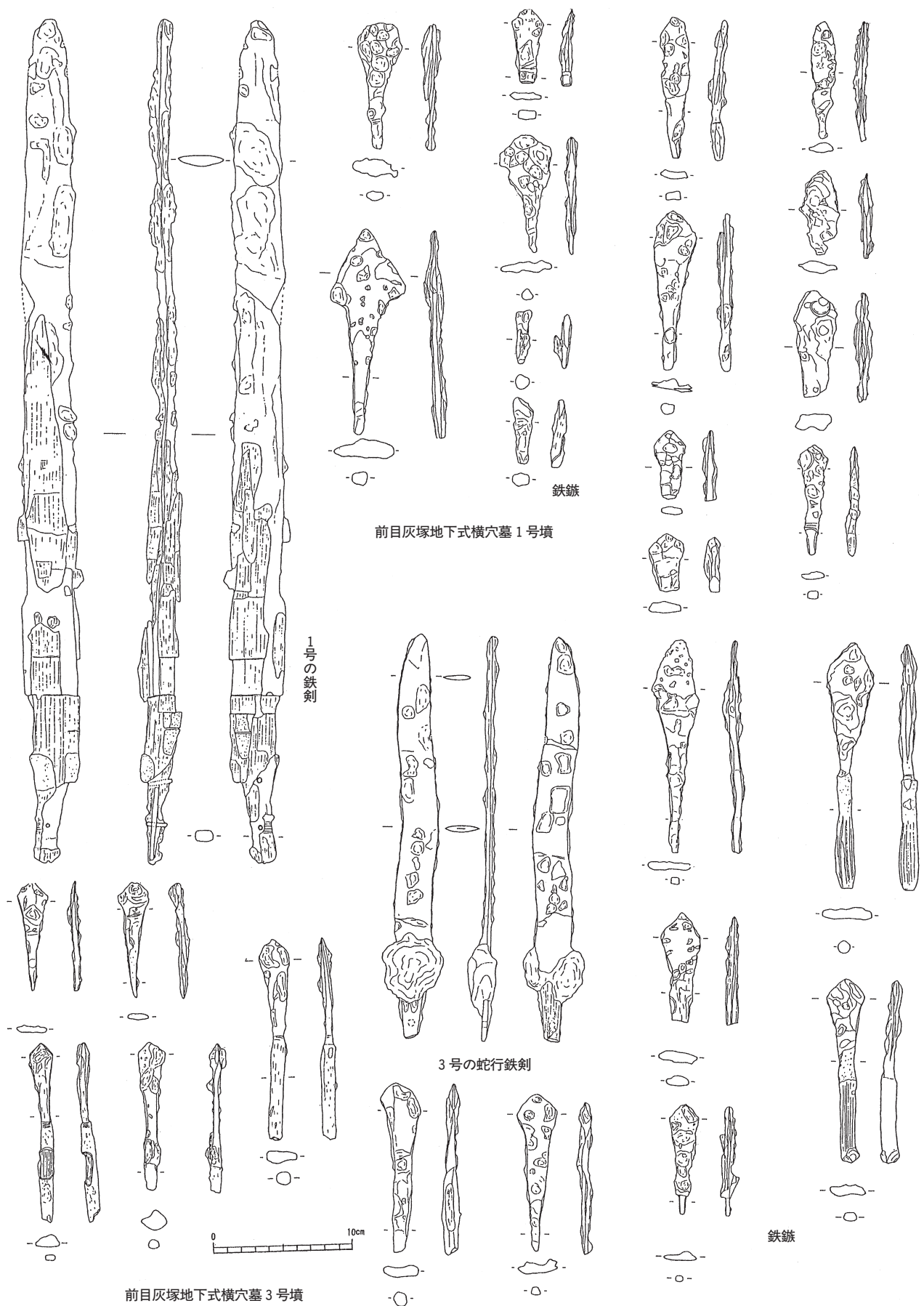
第3図 前目灰塚地下式横穴墓1号墳



第4図 前目灰塚地下式横穴墓3号墳



第5図 前目灰塚地下式横穴墓2号墳



第6図 前目灰塚地下式横穴墓1号・3号墳の出土遺物